

CHAPTER 7: 'GPSL' に準拠した関数

7.1 DEVICE

(1) 機能

何も実行しない

(2) 呼び出し形式

CALL DEVICE(C,N1,N2,N3,N4)

C : [CHARACTER] DUMMY

N1,N2,N3,N4 : [INTEGER*4] DUMMY

7.2 FACTOR

(1) 機能

図形全体の拡大、縮小を表す尺度因子を設定する(GPSL準拠)

(2) 呼び出し形式

CALL FACTOR(FCTR)

FCTR : [REAL*4] 図形全体の拡大、縮小を表す尺度因子

(3) その他

- ・ このサブルーチンをコールしなければ、FCTR=1.0 になっている
- ・ ページ替えをおこなう(CALL PLOT(0.0,0.0,5),VSINI)と FCTR=1.0 にもどる

7.3 GPSLTM

(1) 機能

P S ファイル終了を宣言する(GPSL準拠)

(2) 呼び出し形式

CALL GPSLTM

(3) その他

- ・ CALL PLOT(0.0,0.0,999)と等価である

7.4 LINSEL

(1) 機能

線の種類を設定する(GPSL準拠)

(2) 呼び出し形式

CALL LINSEL(NP)

NP: [INTEGER*4] 線種を指定

(1:実線 2:破線 3:一点鎖線 4:二点鎖線 5:点線)

7.5 NEWPEN

(1) 機能

ペンの選択を行なう(GPSL準拠)

(2) 呼び出し形式

CALL NEWPEN(NP)

NP: [INTEGER*4] 1~255を指定する

(3) その他

- ・ ペンの線種・太さ・色は入力ファイル番号99でPENXに準じて設定する
未設定のペンは 10107 (実線・細線・黒)になる

7.6 RWIND

(1) 機能

物理画面絶対座標を指定する(GPSL準拠)

(2) 呼び出し形式

CALL RWIND(NX1,NY1,NX2,NY2)

(NX1,NY1): [INTEGER*4] 実画面左下端の絶対座標

(NX2,NY2): [INTEGER*4] 実画面右上端の絶対座標

(3) その他

- ・ VSINIによってP Sファイル作成の宣言する必要がある

7.7 VSINI

(1) 機能

仮想空間絶対座標を指定する(GPSL準拠)

(2) 呼び出し形式

CALL VSINI(X0,Y0,X1,Y1)

(X0,Y0) : [REAL*4] 仮想空間左下端の絶対座標

(X1,Y1) : [REAL*4] 仮想空間右上端の絶対座標

(3) その他

- ・ VSINIを呼び出す前にRWINDを実行する必要がある
- ・ 1回目の呼び出しで
 - SX=(NX2-NX1)/(X1-X0)/80.0 (X軸方向の倍率)
 - SY=(NY2-NY1)/(Y1-Y0)/80.0 (Y軸方向の倍率)
 - TX=NX1/80.0-X0 (X軸方向の位置移動)
 - TY=NY1/80.0-Y0 (Y軸方向の位置移動)
 を設定し、P S ファイル作成の宣言を行なう
 (NX1,NY1,NX2,NY2はRWINDを参照)
- ・ 2回目以降の呼び出しでは、ページ替えを行なった後
 X,Y軸方向の倍率・位置移動を変更する

7.8 VSTERM

(1) 機能

何も実行しない

(2) 呼び出し形式

CALL VSTERM(N1,N2)

N1,N2 : [INTEGER*4] DUMMY